

## 8. 庁舎等／消防施設

### ◆消防車庫、倉庫

#### ①施設の防災面の視点

消火活動のほか、風水害、地震、土砂災害時における人命救助や避難誘導等、その他非災害時にも重要な役割を担う消防団の拠点となっています。

#### ②マネジメント基本方針等で示された課題

(※数値等は個別施設計画策定時[R2.12]のものであり、その後変更となっている場合があります。)

##### ◆施設目的と実態

施設利用目的は、地域防災の要となる消防団の活動拠点であり、稼働率等の数値によって優先度を判定する施設ではありません。

現在、昭和 50 年代に建築した R C 造の消防車庫が 3 施設あり、新築当時と比較して消防車が大型化しており、団員定数も増加している中、車庫・詰所共に狭小となり一部の活動に支障を生じている状態です。

また、昭和 60 年代以降に建て替えを実施した消防車庫についても経年劣化による損傷が出ており、計画的な改修が必要です。施設の耐用年数、利用状況を念頭に置き、計画的な維持更新を行うことが必要です。

#### ③施設の今後の方向性

##### ◆消防団の重要性と消防車庫の充実

消防団は常時地域に密着して市民の安全と安心を守る重要な役割を果たしており、消防車庫はその拠点として充実を図るべき施設と考えます。

可児市では消防車庫を 90 m<sup>2</sup>が適正規模と考え施設を建替えています。古い車庫の中にはそれに満たないものもあるため、それらについては建替え時期を検討します。

##### ◆建替え時における地区センターとの複合化

消防団は地域に根差した組織であり、災害時には第 1 次避難所となる公民館等と密接に関わってくるのが想定されるため、各消防団組織の区域や位置関係に配慮しながら、地区センターとの複合化を検討します。

##### ◆消防倉庫（旧車庫）の廃止

現在倉庫となっている旧消防団車庫については、消防施設としての存在意義がないため、今後の建替えおよび維持修繕は行わず、時期を見て廃止します。

#### ④ライフサイクルコスト削減の目標

##### (1) 施設の長寿命化検討

**【長寿命化により令和 33 年以降の建替えとなる施設】**

消防車庫（2-1 今渡、2-4 土田、3-3 西帷子、4-4 兼山）

検討効果 1 億 4,400 万円縮減

##### (2) 施設規模の縮小検討

現在の消防車庫が適正規模で建築されており、消防車の駐車場所と消防団員の拠点が必要であり、90 m<sup>2</sup>を基準として計画的に建替えするため効果はありません。

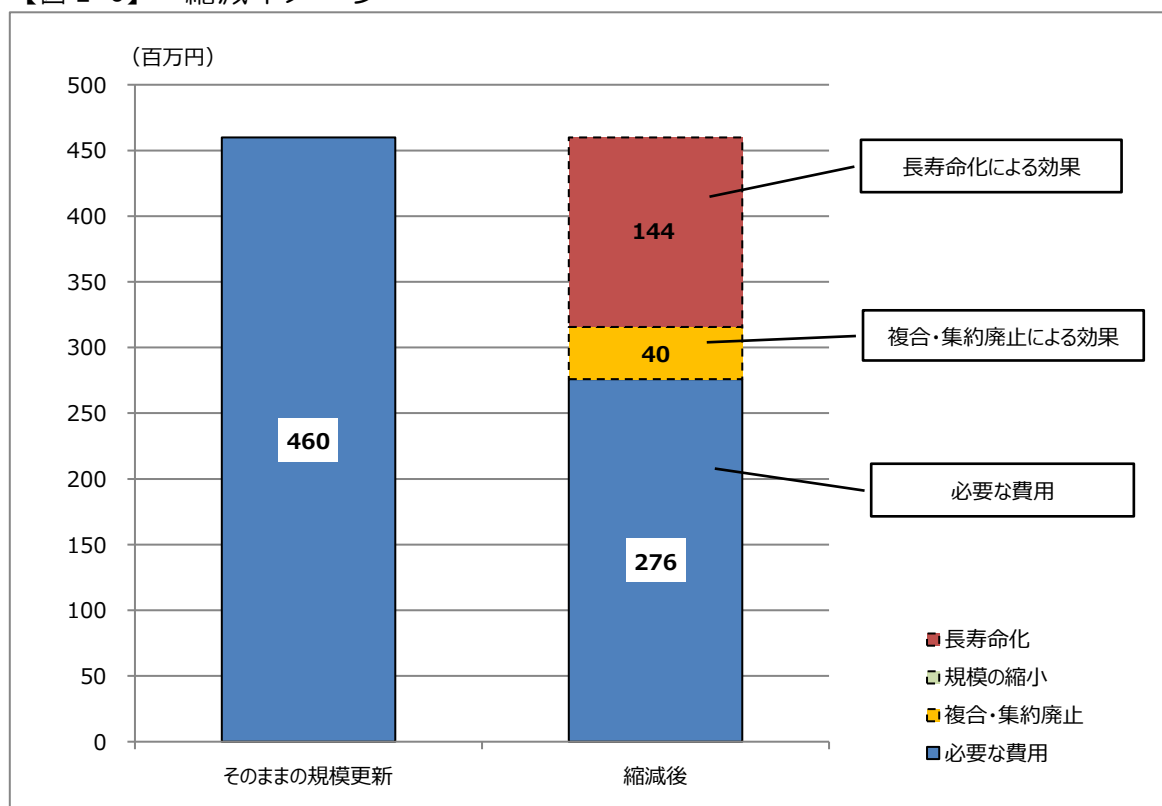
##### (3) 複合・集約廃止の検討

**【検討の対象となる施設】**

倉庫（広見、下恵土、土田、塩河・清水ヶ丘）

検討効果 4,000 万円縮減

【図 2-8】 縮減イメージ



◆ライフサイクルコストの削減の対象とならない施設（平成3年以降建築）

消防団車庫（広見、広見東、中恵土、下恵土、川合、春里、塩河、東帷子、久々利）